



### また中村晴二郎のこと

先月号のB面に掲載している「海員組合を作った男・探訪」(4)で、旧弓削村の初代村長中村晴二郎のことに触れ、現在縁が耐えたとされる彼の墓碑の碑文の紹介をしようとしていた。今号のコラムでは紙数が尽きたので紹介は割愛させていただきます。どうかと思つたのですが、やはり寝覚めが悪く、よつてこの場(A面)を借りて紹介したいと思ひます。

何が、誰が、晴二郎の情熱を持続させたのだろうか？

晴二郎は言うまでもなく現在の国立弓削商船高等専門学校の元をつくった人物です。明治32年、国にあつては実業学校令が發布され国策として子弟の実業教育に踏み出すことになりました。当時の弓削村では村長晴二郎をはじめ村内有識者たちはいかにすれば学校創設が実現可



●弓削島・下弓削自性寺にあるかつての弓削村初代村長・中村晴二郎夫妻の墓。正面から時計方向に、三面にわたる彫刻の文字が刻まれている。揮毫者は不明。

能かの検討を重ねていきましたが、その人達も国際的な深い視野か一番は経費をどうするかで苦慮してました。その後村民の理解も深まったところから明治33年8月1日、「海員補習学校設置に関する諮問の件」で臨時議会が招集され、満場一致で可決。臨席していた越智郡長の添え書きとともに設置申請を具に

### 温故知新

様々な試練があつたわけですが創立当時、この瀬戸内の寒村の村財政の半分近くを学校運営に割いた晴二郎の決意と情熱が

## 中村晴二郎 弓削島に海員学校

ふる里には、時代の要請を伝えた者達と  
 応えた者達の、忘れてならぬ初心がある。

(明治三十四年)

提出。明治34年1月1日付を あつたればこそ、その後の弓削であつたことを忘れてはなりません。

典：弓削商船高等学校60年史、弓削町史、生名村史

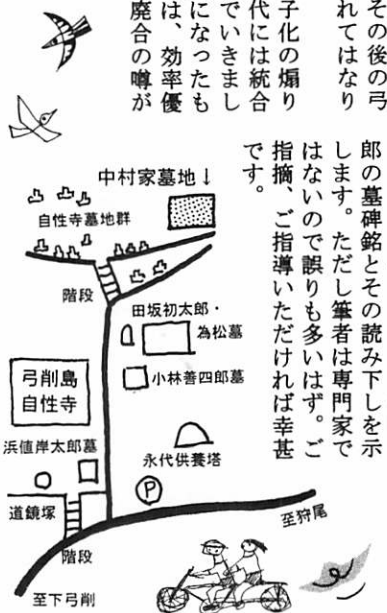
明治34年当時、弓削村出身の実地上の土官ならびに職長のクラス船員は、甲種船長13名ほか総計735名もおり、先が再燃。改めて統廃合の噂が

天倫院六石義晴居士(正西)  
 天慈院芳園知鏡大姉(正西)

君姓中村氏諱吉續稱晴二郎越智郡弓削村之人考武兵衛姓大山氏君其次男也娶廣島縣徳田村徳永氏次女生五男五女君以明治五年三月命下弓削村里正再来繼續支職者三十餘年執掌公事終始如一曰明治三十八年九月二十五日以弓削村長病歿於家享年五十九君資性謹嚴練達世務公私之要莫不與而辨焉縣立弓削商船學校之創立亦依其力者多矣明治十七年官勤教育上功勞特賜玉篇壹部視箱壹箇同三十年依明治二十七年八年事件之功賜木盃壹組皆異數也室與志亦有淑聞大正元年八月二十一日歿享年五十八共葬於海江山先塋之次

「読み下し」  
 君、姓は中村氏にして諱(いみな)生前の徳行によつて死後に贈る称号は吉續(よしつぐ)、晴二郎(せいじろう)と稱す。越智郡弓削村の人。考(ひょうじつ)武兵衛(武平)、妣(ひはは)大山山氏。君はその次男なり。広島県徳田村の徳永氏の次女を娶り五男五女を生(な)す。君、明治五年三月、下弓削村里正(りせい)村長を命ぜり後、再(また)来(ら)に(ら)らるるを繼續するところ三十余年。公事に執掌(おんじょうしやう)する(こと)一日(ひとひ)の(こと)弓削村長にして自(みづか)かに病歿(びやうぼく)す。享年五十九。君は資性(しせい)に

資質と性格 謹嚴、世務(せいむ)に練達し、公私の要(かなめ)不與(な)これ莫(な)く、すなわち分けてもここに果立(くわだつ)弓削商船学校の創立はまたその力の多き矣(かな)。明治十七年官勤(かんくつ)つばみ、ろく(ろく)さるる、お役所勤め)や教育上の功勞(こうらう)に玉篇(ぎふく)一部、視箱(しせう)一個を特賜(とくみ)さる。同三十年には、明治二十七年、八年の事件(じけん)自清(じけい)争(そう)の功により木杯(もくはい)一組を賜(たま)はる。同三十年には、(室(むろ)は志(し)を(と)も(と)し)、また淑聞(しゆくぶん)有り。大正元年八月二十一日没(ぼく)す。享年五十八。共に海江山(自性寺)の先塋(せんえい)に先(ま)にある墓(はか)の次に葬(ま)る。



漏れてきています。前回には町内外の有志による「高専を存続させる会」を結成、斯界に働きかけましたわけですが、そうした中、我々はこの学校の創設に尽力した先人を称えることをして、初心に思いを致すのも意義あることだと思つるところです。

ふるさと再発見  
 下弓削の自性寺には、晴二郎ほか初代校長の小林善四郎、田坂初太郎、為松、濱根岸太郎ほか錚々たるメンバの墓が鎮座ましましています。

以下に自性寺にある中村晴二郎の墓碑銘とその読み下しを示します。ただし筆者は専門家ではないので誤りも多いはず。ご指摘、ご指導いただければ幸甚です。

ふる里を、  
 見る・知る・満ちる愛するところ。  
 顕彰碑ウォッチングに行こう!

### きょうち五二

青木喜代子

小さいころの音の記憶をひとつあげるとすれば、家から百メートルほど坂を下りた所にある火の見櫓の半鐘の音。昼夜おさまいなく、いきなりカンカン。今の様に情報網はなく、大人も子どもも、不安そうにうろろしていた。その姿が子どもにはとても恐ろしい事になっていく気がして、胸がドキドキしたのを覚えてる。

翌日、消火ホースを干している近所の消防団のお兄ちゃん、とても頼もしく見えた。数年前の台風で床下浸水の時も、今年八月の超大型台風の接近でビビっていた時も、地元消

防団の若者は、黙々と作業をしてくれた。不安の中、きびきびとした姿は、本当に心強い。

この夏、各地で悲しい災害が起きた。暑さと二次災害の中、寝食を忘れて作業する自衛隊、消防、警察の人達の姿に頭が下がる。

真夜中、暗闇の中、大雨、雷、流れる土砂。どんな気持ちで朝を、救助を待っていたのだろうかと思うと、胸が痛む。今もその時の音が耳に残り、不安で眠れない子が大きい。

どうぞ、一刻も早くこの辛い音の記憶が、小さな胸からさえますようにと祈るしかない。



秋の夜や

### 合併十年 町民の立場から見て

平成の大合併でわが町上島町が誕生して10年。その間わが町以外の自治体でも合併がよかったですという話はあまり聞かない。平成の大合併は、国の地方への財政支出の抑制が目的で、決して地方の、真の意味での自立を目指したものではありません。慢性的財政的苦境に陥っていた当時の末端自治体は合併の特例というアメと一定年数(10年)後、地方交付税を減額するというムチを示され、仕方なく合併したと理解されている。そして10年経過してみれば、自治体の運営経費は削減された。それは合併効果として国にはよくても、当事者である自治体(市町村)にはサービス低下を招いているのは周知の事実だ。

### 議員活動録

(20) 議会議員 平山和昭



## 合併のお祭り騒ぎもいっけねど

町の将来にむけ、何が出来、何が出来てないのか検証もありません

## 海員組合を創った男・探訪

濱田國太郎顕彰準備会  
 (毎月25日13時～。生名中央公民館2Fで開催)  
 (5)

日本海員組合(現・全日本海員組合の前身)をつくった濱田國太郎は、我が町の旧・生名村の出身です。  
 「全日本海員組合」は、第二次世界大戦後間もない昭和20年10月5日に創立大会をもち、我が国では数少ない産業別労働組合、つまり同一産業の労働者を職種や所属企業に関わりなくひとつ組合に組織する、として再出発(創立)しました。  
 組合の創立宣言には、8年に及んだ戦争と敗戦がもたらした現実を前に「祖国日本の再建を担うものは我ら海員である」「新日本の胎動を促すものは我ら海員であるとの誇りある自覚こそ我らの再起の指標である」とうたいあげています。  
 振り返れば1914年(大正3年、國太郎41歳の頃)第一次世界大戦勃発。2年後、近代的海員労働組合の先駆けとして國太郎たちは「友愛会・海員部」を設置。部長に國太郎を任じました。その頃、船員労働運動は、職能別、企業別など20以上の団体に分かれていたといひます。



写真説明：昭和6年、国際運輸労連(ITF)書記長エド・フィンメンが来日した時の記念写真。前列向かって右端が濱田國太郎。(全日海HP)

第一次世界大戦が終わり(大正7年、國太郎45歳)友愛会海員部ほか5団体が賃上げ運動を展開。それはうまくゆきませんでした。大正9年、第一回ILO海事総会には、國太郎が顧問として出席。そこで海外の産業別労働組合の実情に触れたことから、日本の海員労働運動は組織統一への機運が高まります。

大正10年(國太郎48歳)23団体及び2万人の普通船員(海技免状を持たない船員)が参画して「日本海員組合・副組合長濱田國太郎」が誕生したのでした。

こういう流れをみると、國太郎は紛れもない郷土の偉人だと考えるのですが、読者の皆さんはいかがでしょうか。「郷土の偉人」をどうとらえるか。功成り名を遂げ、故郷に錦を飾ったからそうなのか。故郷にこれといった恩恵をもたらしたからそうなのだろうか？

npo 頼れるふるさとネット  
**★出よう会**  
 毎月第2、第3火曜日。午後1時から3時ごろまで  
 ・活動趣旨：家に籠もらない為の地区のお年寄り達の交流会。

★意味があるのかランク誇示  
 行政の差し出す情報には財政的な指数というものがある。たとえば財政力指数、実質公債費比率、将来負担比率などだ。

【言葉】実質公債費比率  
 自治体の収入に対する負債返済の割合のこと。3年間の平均値で表す。1.8%以上だと新規借入するには国や都道府県の新規借入する。2.5%以上は借金を制限される。

★安心・安全・便利の町へ  
 財政が健全であるというのを例えて言えば、一家の収入が支出を上回ってあり、将来に向けても、家族が安心して世間並みの生活を送れる、自転車操業ではないということだろう。それを自治体に当てはめていけば、

★わかりきったことだが  
 どのような行政サービスを行うにしろ経費はかかる。その経費が自前の税収入からではなく、国、県からの交付税や補助金に頼らねばならぬとすれば、自治体の住民が求めるものが何でも右から左へできるはずもない。自前の税収が豊かな都市ならいざしらず、平成20年をピークに国の総人口が減少し入ったいま、少子高齢化にまっしぐらの末端自治体にこれら自前の税収が増えるとは、よほどの施策の成功でもない限り期待するほ

★会計指数イコール実態か  
 愛媛県は20市町で構成されている。その中で3番だ4番だと言つても、肝心の住民が、日常生活に不便や不安をかこつようでは話にならないだろう。住民にとっては、自分が住む市町が安心して喜んで住める行政サービスが提供され、どれだけが重要ではないのだろうか。ちなみに愛媛県下で一番財政力指数(1・0を超える)と交付税が交付されないう自治体となる現在、東京都と愛知県のみ)の高い四国中央市(指数は0・81。24年度決算)では、実質公債費比率13・8%。将来負担比率150・7%。同じ時期

の指数を比べてみれば、わが上島町は財政力指数は0・21。実質公債費比率9・4%。将来負担比率29・5%となつていて、たしかに財政力指数以外にはランクが上のようなだが、さて住民の安全、便利感はいかがだろうか。

人々が安心してその地域に住み続けていられるかどうかとイコールのほうではなからうか。肝心なのは指数ではなく、お金がどのように使われているかではないのか。ちなみに4年ほど前のデータだが「日本地域番付」によれば、我町の首長給料と議員報酬は県下最下位でありながら、住民一人当たりの借金は県下1位の名譽に浴している。あれから4年。我らは安心安全の地域住民になれているのだろうか。

しばしば町のトップは、我が町の財政は健全であり、それら指数が県下で何番だと胸をはる。だから10周年はおめでたい。ほんとうにそうなのかな？  
 いくら指数の比較をしてみても、会計の数字的には他の市町にくらべ健全度のランクが高いように見えるが、日常の町民生活の実態が、だから健全であるという意味にはならないのではないか。

よよみ亭 映画研究会  
 日時9月15日(日)19:00 参加無料  
**「自閉症の人が見ている世界」**  
 <13人のエピソード>  
 自閉症の人達には世界はどのように見えるのか。子供の頃自閉症だった人がいまだのように幸せに暮らしているのか、13人のエピソード。  
 ★8月20日の発達支援センターさくらの講演会で講師から視聴をすすめられたビデオです。  
**お便りから**  
 平山様  
 雨ばかりの八月が過ぎ、もう秋の気配です。おかわりありませんか？  
 8/31朝日新聞、天声人語の明良佐藤さんの「戦後カレンダー」のことが載っていました。佐藤さんに盆すぎに本を送っていただき、まだ読めず失礼しています。本代くらい切手で送らねばと思っています。涼しくなったら平山さんにいただいた本と読むつもりです。よろしく。 青木